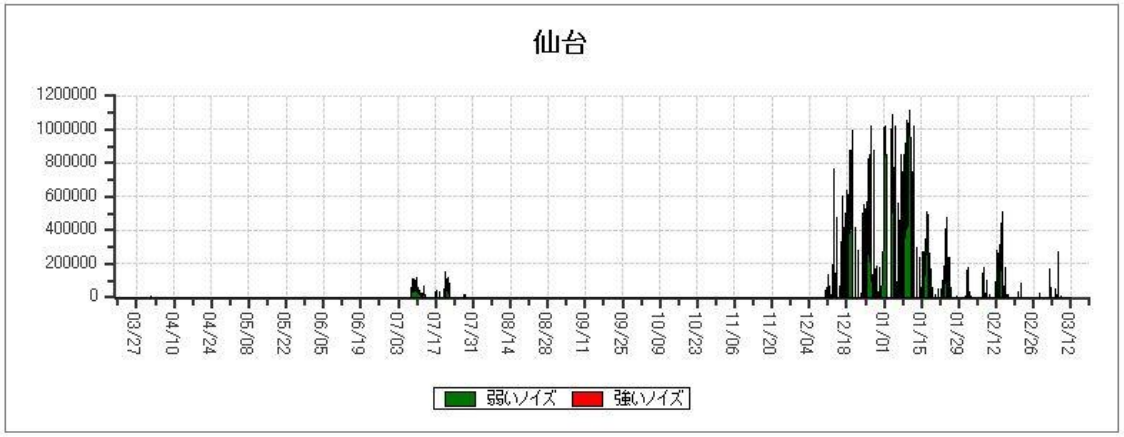
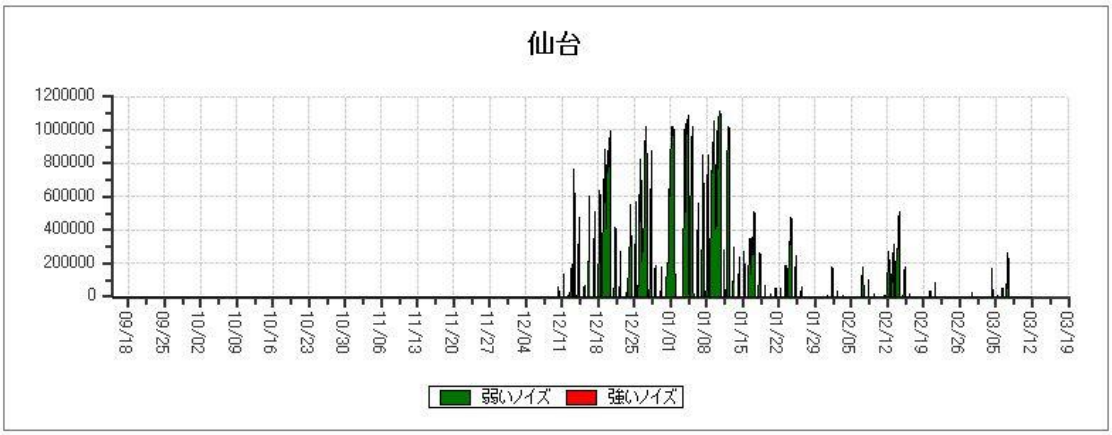
2011 年 03 月 11 日 三陸沖　M9.0　のデータの推移について

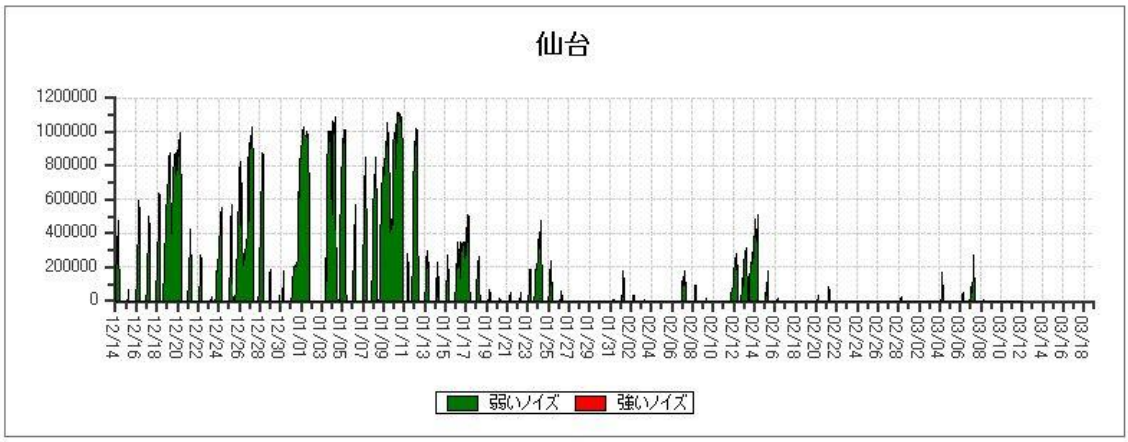
仙台　３６０日データ　１年間で過去最高のデータが１２月半ばから出現している。



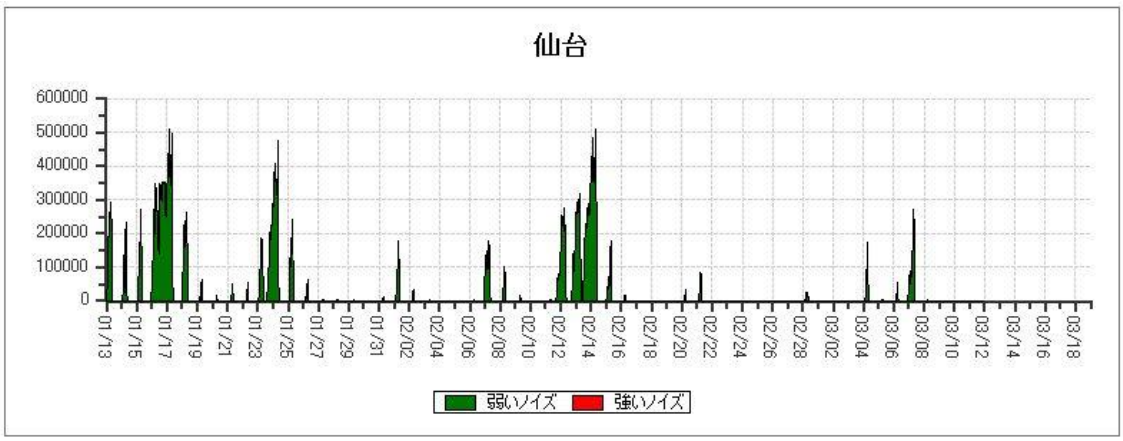
仙台　１８０日データ



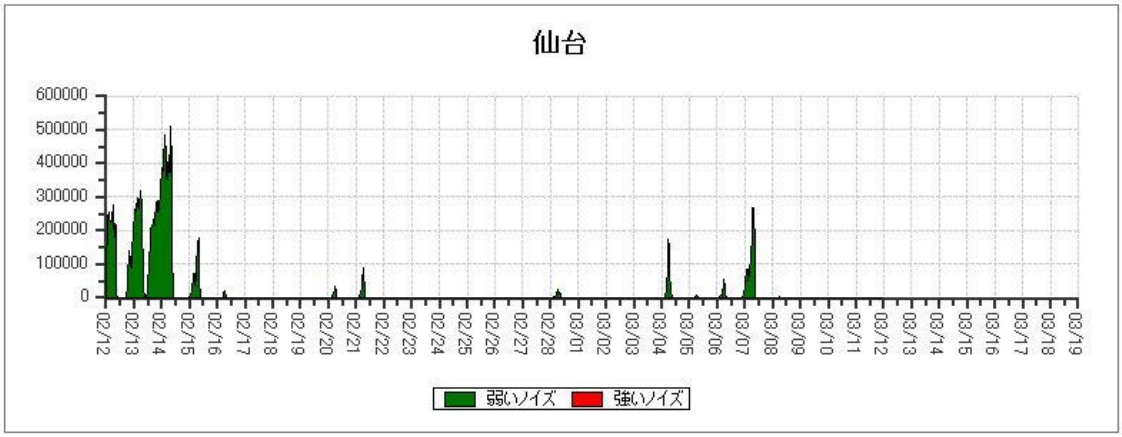
仙台　９０日データ　１月１０日ごろをピークに減衰が始まる。



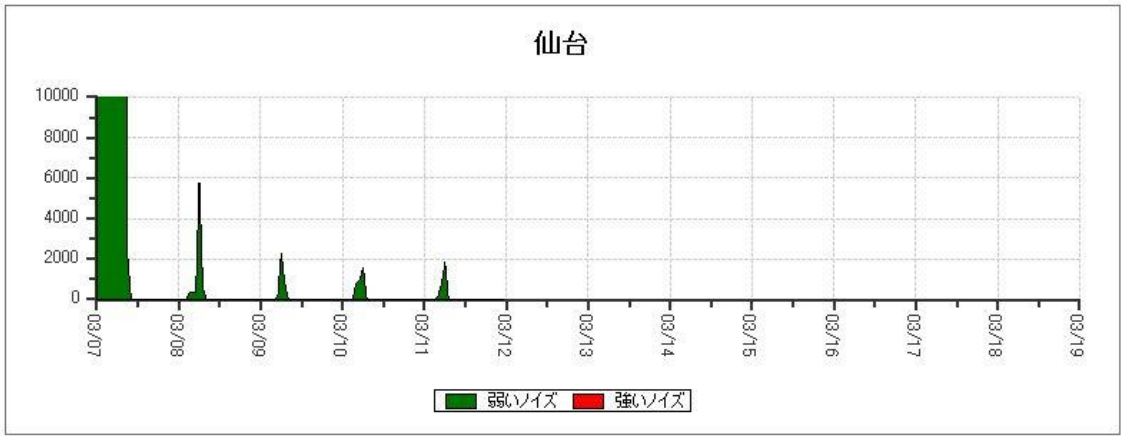
仙台　６０日データ　データは６０万/H と大きいが散発的なイメージである。



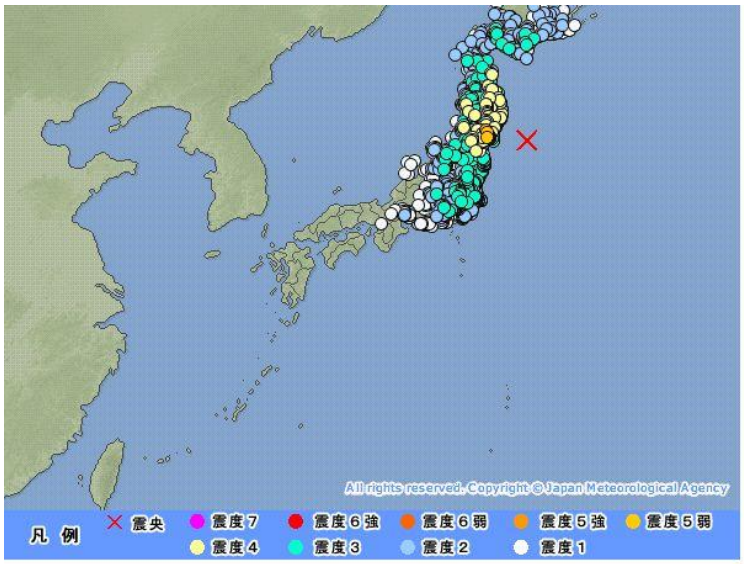
仙台　３０日拡大データ　（通常はこの画面を見ている。）この画面だとデータは
２月１４日に６０万/H との大きいピークを迎えて急な減衰をしたように見える。
やはり散発的でよくわからない。



仙台　７日拡大データ　３月７日以降収束していく。

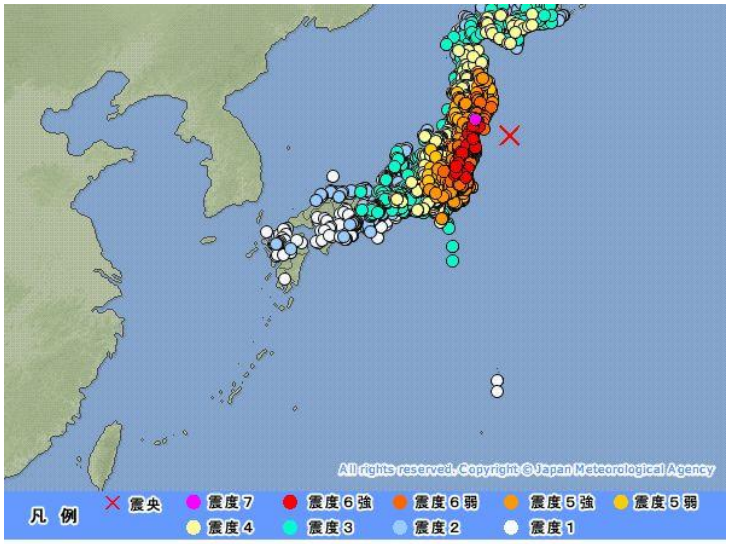


地震発生　３月９日　11:45 三陸沖　M7.2



平成23年03月09日11時57分 気象庁発表
09日11時45分頃地震がありました。
震源地は三陸沖（北緯38.3度、東経143.3度、牡鹿半島の東160km付近）で震源の深さは約10km、地震の規模（マグニチュード）は7.2と推定されます。

２日後、発生　３月 11 日　14:46 三陸沖　M7.9(M9.0 に修正)



平成23年03月11日15時01分 気象庁発表
11日14時46分頃地震がありました。
震源地は三陸沖（北緯38.0度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130km付近）で震源の深さは約10km、地震の規模（マグニチュード）は7.9と推定されます。

＜仙台のデータの推移についての考察＞

３６０日（１年間）データでは　１年間で過去最高のデータが１２月半ばから出現している。また９０日のデータ　１月１０日ごろをピークに減衰が始まる。

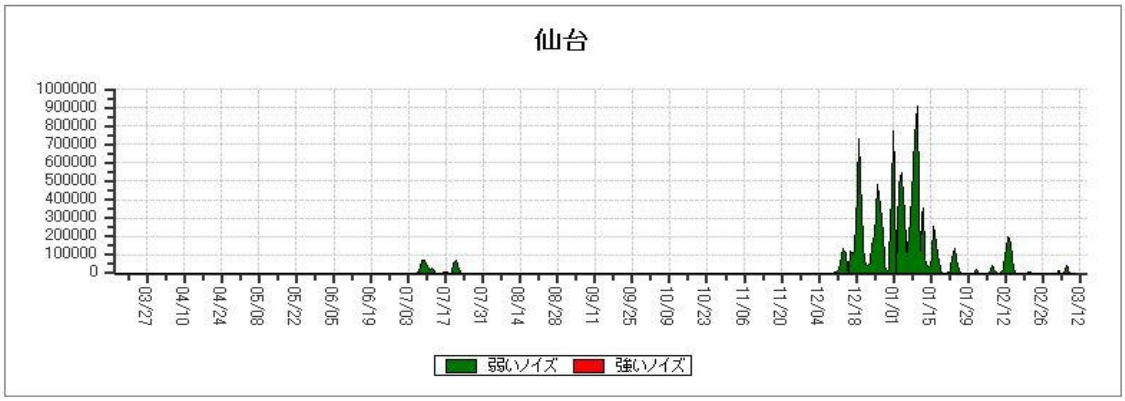
これを７日の縮尺拡大データでみると　３月７日以降収束していくことが分かる。

これを持って３月 09 日の三陸沖M 7.2 はある程度予想可能であるが　１１日のM9.0 は予想できないと考える。

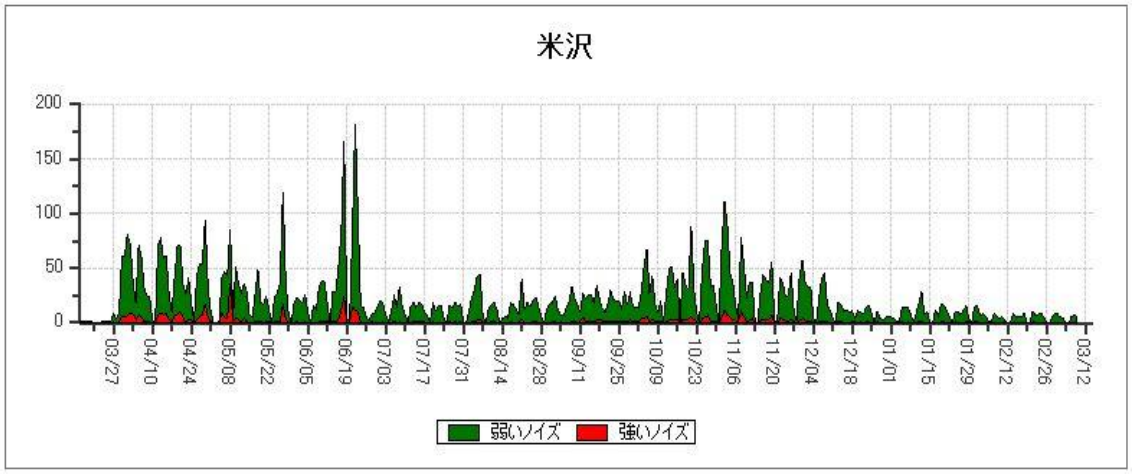
～～～～～～～～～～～～～～～～～～

周辺のデータの状況について

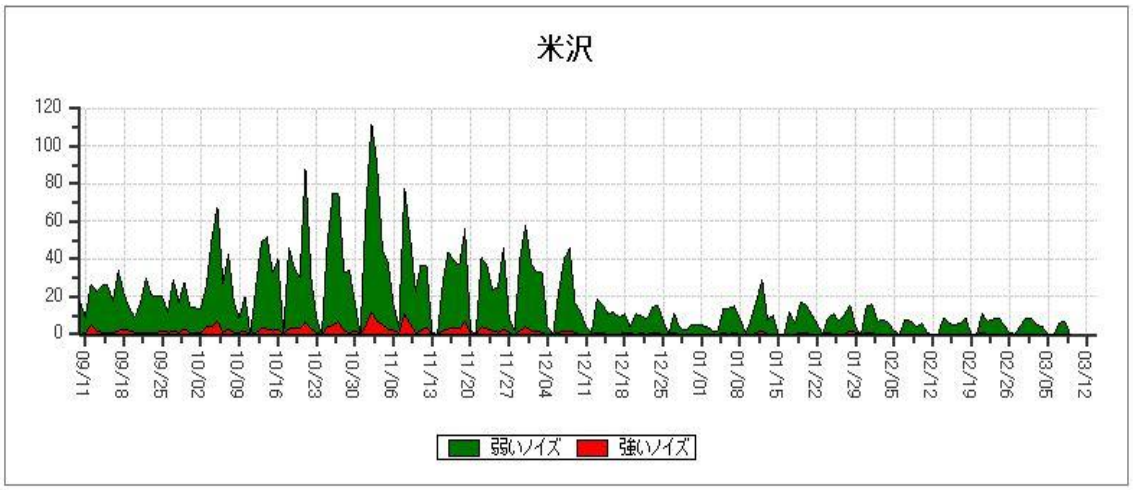
仙台　３６０日データ　前述の通り、１年間で過去最高のデータの塊がある



米沢　３６０日データ　昨年１１月上旬あたりをピークに山を作っている。



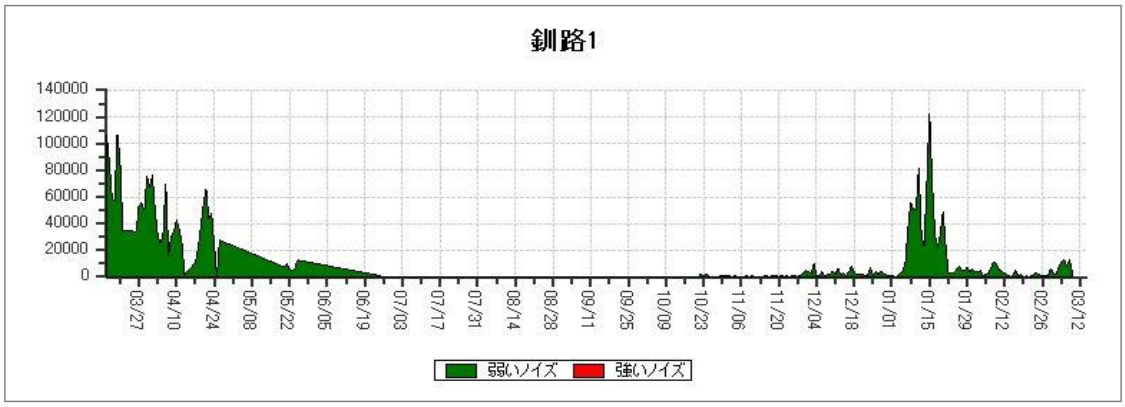
米沢　１８０日データ　昨年１１月上旬のピークの大きな山が　かなりゆっくりした減衰―収束を見せている。



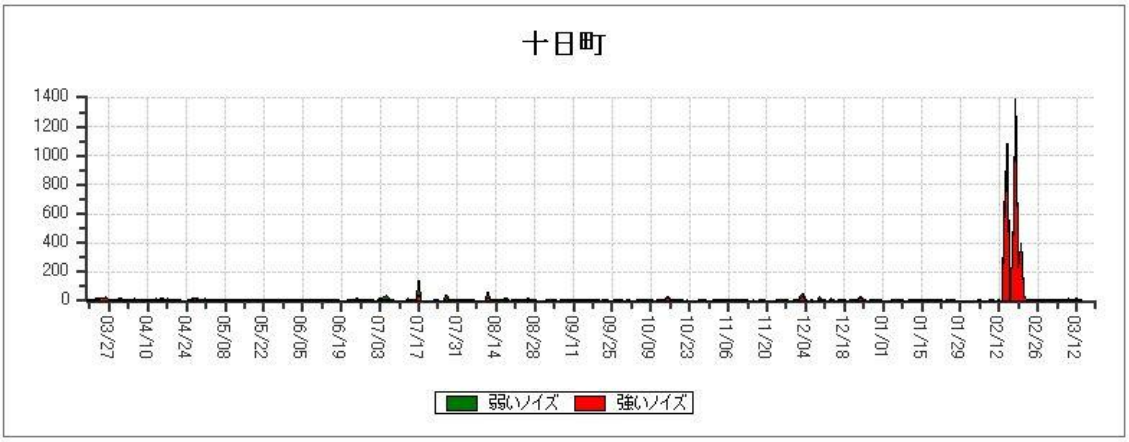
小牛田（宮城）３６０日データ　活発なデータがずっと続いている。

庄内　３６０日データ　昨年９月頃から上昇し、１月後半に真っ赤なピークを作っている。

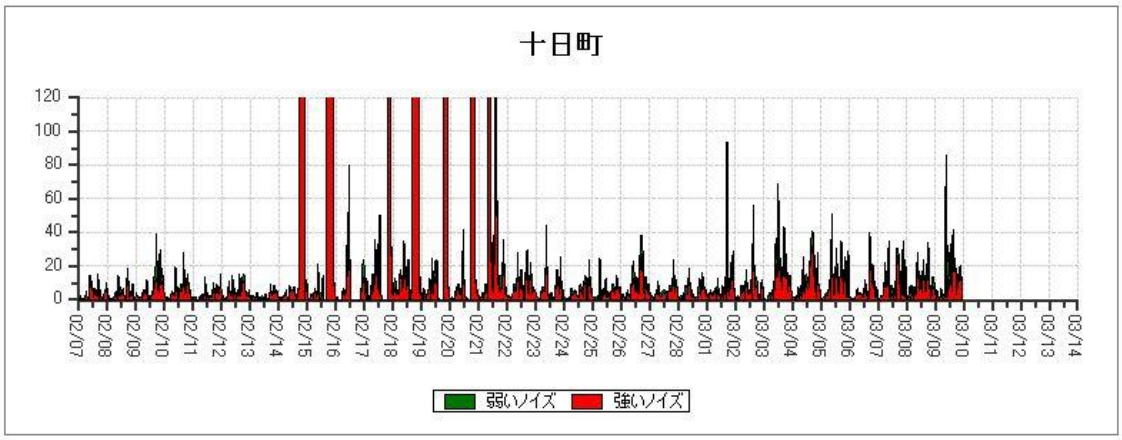
釧路　３６０日データ　昨年７月にいったん静まった後、１２月から増加して１月中旬にピークを迎えている。



新潟　３６０日データ　２月に１年間で過去最高のデータの塊がある。



新潟　３０日拡大データ　3/2 から 3/9 まで減衰して　3/10 に一本立ちが出ている。



＜周辺のデータの推移についての考察＞

前述の通り、仙台の３６０日（１年間）データでは　１年間で過去最高のデータが１２月半ばから出現しているが　北海道の釧路にも１２月から増加して大きいデータが出続けており、日本海側では　庄内の３６０日データでも　昨年９月頃から上昇して１月後半に真っ赤なピークを出している。さらに新潟（十日町）も３６０日（１年間）データでは２月以降に最高値が出ていて　3/2 から減衰していく。

他方　米沢だけは傾向を異にして１８０日データでみてわかるように　昨年１１月上旬のピークの大きな山が　かなりゆっくりした長期の減衰―収束を見せている。

このように仙台、釧路、庄内、新潟といった極めて広範囲のデータが昨年後半から上昇しはじめ　２～３月に１年間で最高値のデータを出していることから　何か大きいイベントを予想するべきであった。またその発震時期は米沢や新潟の減衰が参考になった、と思われる。

この仙台の塊状データと米沢の大きい減衰のデータの組み合わせは 2005,7,23 の東京に１３年ぶりに震度５がきたときの　六本木と市川のデータ、あるいは 2009,8,11 の駿河湾地震のときの六本木と新島のデータなどによく似ている。

しかしながら　これらのデータ持って３月 09 日の三陸沖M 7.2 はある程度予想可能かと思われるが、１１日のM9.0 は予想できないと考える。
広い東北に観測装置が　仙台、小牛田、米沢、（角田、茨城は停止中）しかなく、
北海道の釧路、日本海側の庄内、新潟を参考にするのでは　あまりに頼りない。
茨城―福島―宮城の海側―岩手―青森―秋田、といった地区に観測装置が複数あれば、と悔やまれる。

2011/03/14

〒157-0073
東京都世田谷区砧 6-6-18
TEL03-3417-1801
FAX 03-3417-1828
㈱新興技術研究所
熊谷　行裕